



晃華学園暁星幼稚園



# あけぼの会便り

平成 28 年 1 月 21 日

NO. 4



## □ クリスマス会 子どもたちの感想 □

12月15日のクリスマス会では、新たな試みとして全学年での聖劇を披露してくれました。みんなで一体となって、素晴らしい劇をつくりあげてくれた子どもたち。その裏にある思いを少しのぞいてみたい、という気持ちで、保護者の方を通して感想を集めてみました。学年ごとにご紹介いたします。



### ☆ 年少組 ☆

- 「ひつじになったことが楽しかった。」
- 「疲れた！」
- 「ドキドキしたけど、楽しかった。」
- 「体操の先生もひまわり先生もみんないて、ドキドキした。」
- 「よぞらに～♪の歌がつけられた。」
- 「きんちょーした。」
- 「楽しかった～。めえ。」
- 「心がドキドキした。」
- 「声が疲れた。」
- 「人がいっぱいいた～。いつもと違った～。」
- （「何が楽しかった？」の質問に→）「ひつじ。」
- 「上手だったでしょう♪」（←終わってからの一言）



## ☆ 年中組 ☆

### 【 練習の時 】

「歌も台詞もきちんと覚えられるか心配だったから、真面目にやろうと思った。」

「総練習の時、朝マリア様に上手に出来るようにお願いしたら、大丈夫だった。」

「〇〇君は博士なんだよ。」（←総練習後は皆の役を覚えてくれたとのこと）

「本番はね、長いんだって。疲れちゃうな。お腹すいちゃうな。」

「総練習、道間違えちゃったの。」

### 【 発表前 】

「ドキドキしたけど、お母さんに格好いいって思ってもらえるよう頑張ろう！って思った。」

「あ〜っ。ドキドキしちゃうな〜。」

「緊張しちゃうなあ。」

### 【 発表後 】

「緊張したけど楽しかった〜。年少さんの羊が可愛かった〜。年長さんはセリフいっぱい、すごいね。」

「いきなりみんなが沢山いてビックリした。歌は一生懸命頑張った。みんなと一緒に（年長さん、年少さんと）劇をして嬉しかった。」

「ちゃんとカッコよく出来たか、お母さんに聞いてみたいと思った。」

「朝、マリア様にお祈りしたらみんな上手に出来て良かった。楽しかったな。」

「練習は大変だったけど、楽しかった！」

「楽しかったけど、ドキドキして緊張しちゃった〜。」

「マリア様はねえ、3人いるんだよ〜。」

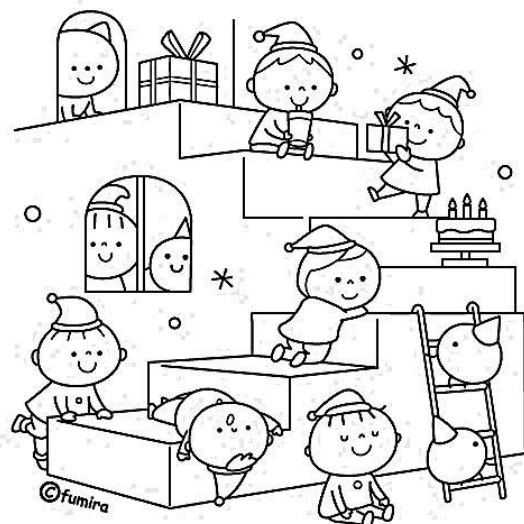
「年長さんになったらマリア様やりたいなあ。」

「年長さんになったら博士をやりたい。だって、カッコいいから。」

「ずーっと楽しい！」

「練習も本番も楽しかったから、終わってさびしい。」

「うちの子は大好きな年長さんとのお別れが迫っているのをひしひしと感じているようです。最後を前にこうやって皆で演じた事は、子どもにとってもよい思い出になったと思いました。」とのコメントをくれたお母さんもいました。



## ☆ 年長組 ☆

「楽しかった〜。大変だったけど。」

「ちょっとドキドキした。」

「みんなの衣装が綺麗だった。」

「年少さんの羊たちがかっこよかった。」

「最初は緊張してたけど、ママが見えたから緊張しなくなっちゃった。」

「もっといっぱい一人で言葉を言いたかった！100字くらいあったらよかったな。」

「練習で何度も間違えちゃったから、できなかつたらどうしよう！と思ったよ。だけど、本番では上手にできたから、ほんとにほんとによかった！」

「セリフを覚えるのが難しく、苦労してここまで頑張ったんだよ。」

「緊張しなかったよ。時計を見てセリフを言ったからね。」

「やっぱりマリア様をやりたかった。次にやるなら最初のマリア様をやりたい。でも、大天使は大きな羽根を付けられたからいいんだけどね。」

「マリア様の歌、音楽に合わせて練習するのが難しかったけど、楽しかった！」

「宿屋さんの役を頑張れますように！」（←「当日朝、そうお祈りしていました」とのこと）

「聖劇ができて、うれしかったよ。」

「すごくドキドキしたけど、終わった後いい気持ちだった。」

「上手にできたから、嬉しかった〜。」

「頑張りすぎて、全部の力を使い切った感じ。」

「もう幼稚園終わりで、クリスマス会最後でさみしいな。」

「あぁー。もう一回昨日に戻りたいなー。」（←翌日の感想。「その後、聖劇の各場面の絵を描いていました。しかも配役表つきで。」とのこと）



一人一人が、ドキドキしながら真剣に聖劇と向き合い、達成感と喜びを持ってやりきった様子が、手に取るように伝わってきますね。子どもたちの感想を寄せてくださった皆さま、ご協力いただき、本当にありがとうございました。

□ 父のひとこと □

### 『重荷から自由にする言葉』

「あなたの重荷を主にゆだねよ。主はあなたを支えてくださる。主は従うものを支え、とこしえに動揺しないように計らってください」（詩編第五五篇三節）

この言葉は、私の好きな聖書の言葉の一つです。仕事や子育ての中で自分の思い通りにいかないことが起こります。そこでく自分がやらなければ>という思いに支配されると、だんだん重荷になってきます。それが積み重なると思い煩いになり、心病んできます。自分の子育てに自信を失うこともあります。仕事が忙しいと、家族に申し訳ないという思いでいっぱいになります。そんな時にこの言葉をよく思い起こします。「あなたの重荷を主にゆだねよ」。

よく考えると、自分が頑張れなくても、太陽は昇り、陽はまた沈みます。自分が力不足でも、不思議に子どもは育ってくれます。自分の思いを超える存在があることを知ると、肩の荷が降りることがあります。同じ課題に取り組むとしても、<自分がやらなくては>という思いから自由になって改めて向き合うと、動揺することがあっても、しっかりと立つことができます。

大事なことは、自分を自由にしてくれる言葉を聴くことだと思います。人に相談をするとき、私たちは自分たちを重荷から自由にする言葉を求めているのだと思います。「あなたの重荷を主にゆだねよ。主はあなたを支えてくださる」。思い煩いから自由になろう。もし自分の判断が間違っていたら、神さまが正しい道に連れ戻してください。だから、今自分が最善だと思うことを全力で取り組もう。この言葉はそのように自分を前向きにさせてくれます。

最後に、もう一つ私の好きな聖書の言葉を紹介して結びとします。皆様のそれぞれの子育ての歩みの上に、神の祝福を祈ります。

「思い煩いは、何もかも神にお任せなさい。神が、あなたがたのことを心にかけてくださるからです」。（ペテロの手紙一第五章七節）

□ 土曜学校について □

暁星幼稚園では、卒園した子どもたちが園で学んだ宗教的情操をさらに深め、お友達との交流を通して神様と人々を愛する豊かな人間に育ててほしいとの願いから、月に1回、土曜学校が開催されています。

今回、卒園生から、参加されている土曜学校についての感想文をいただいたので、紹介させていただきます。

土曜学校について

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
わ	た	し	が	土	曜	学	校	に	か
よ	う	の	は	、	ち	が	う	学	校
に	、	い	っ	た	大	す	き	な	お
友	だ	ち	と	、	会	え	る	か	ら
で	す	。	こ	の	間	ド	、	チ	ホ
ー	ル	を	、	一	年	生	か	ら	、
6	年	生	の	み	ん	な	で	や	り
ま	し	た	。	お	ね	え	さ	ん	た
ち	は	、	争	か	げ	ん	し	て	く
れ	た	の	で	、	わ	た	し	は	、
ふ	ざ	け	て	、	と	ん	だ	り	、
ふ	せ	た	り	し	て	、	先	生	を
わ	ら	わ	せ	ま	し	た	。		
そ	れ	で	お	姉	さ	ん	に	あ	て

がっ にあ ようびし

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
る	こ	と	が	、	で	き	ま	し	た
と	て	も	、	う	れ	し	か	っ	た
で	す	。	わ	た	し	の	い	た	ち
ー	ム	は	、	か	ち	ま	し	た	。
な	の	で	、	ゲ	ー	ム	の	あ	と
の	、	お	か	し	は	い	つ	も	よ
り	お	い	し	か	っ	た	で	す	。
つ	ぎ	の	、	土	曜	学	校	も	、
た	の	し	み	で	す	!			

リラックスして楽しそうな様子が、生き生きと伝わってきます。今は園児の子どもたちも、いつか来る卒園の後に、こうして楽しい時間を持てたら素敵ですね。

素晴らしい感想文をありがとうございました。

□ 図書室通信 □

今回は担任外の先生方におすすめの絵本をお聞きしました。



《シスターより》  
 作：蔵富千鶴子 絵：柿本幸造 発行所：至光社

おすすめの一言  
 「どんくまさんがうさぎ幼稚園にやって来て、イエス様のご誕生をお祝いするクリスマスに参加します。子ども達も行ったクリスマスの劇と照らし合わせながら「博士役は？羊飼いは誰？」と目をキラキラさせて聞いていました。」



《バス(往路)担当の先生より》

作：中川ひろたか 絵：村上康成 発行所：童心社

おすすめの一言

「お子さんの成長を親子で一緒に感じながら読んでほしい一冊です。ぜひ、お子さんを膝の上に乗せて読んでみてください。」



《バス(復路)担当の先生より》

作：山崎陽子 絵：末崎茂樹 発行所：金の星社

おすすめの一言

「こぐまのトトがもりのなかにはなばたけをつくりました。つぼみをつけてはながさきはじめると、はながへっていきます。だれがとっていくのかな…。」

とてもおもしろそうな絵本を紹介していただいて、ありがとうございました。

余談ですが、先生方にはバスでも楽しい絵本をたくさん読んでいただいています。園庭開放での外遊びの時間は短くなったりもしますが、絵本を読んでもらったり、お友達や先生とおしゃべりをしたりちょっとしたゲームをしたり、バス通園はとても楽しそうでお勧めです。



娘が年少組の時から毎年11月になると借りてくる絵本がありました。「さむがりやのサンタ」という絵本です。コマ割りがしてあって吹き出しもあり、漫画のような手法で描かれています。タイトル通りとても寒がりです。フツフツ文句を言いながらプレゼントを配る、普段イメージしている優しいサンタさんではないのですが、人間味あふれるサンタクロースに好感を持っているようです。年少の時には絵を楽しむ、年中の時にはお友達と一緒に借りて楽しみ、年長の今年は一人でじっくり読んでいました。

11月下旬の図書のお手伝いの時には、クリスマス関連の絵本がたくさん貸し出されていました。子ども達も、絵本でワクワクの気持ちを更に高めていたのでしょう。これからは「冬」「雪」「節分」などに関する絵本で、季節や行事を感じたり学んだりしていくことと思います。図書室にもこれらの絵本はたくさんありますので、保護者の皆さまも是非ご利用ください。そして、おすすめの絵本がありましたら、広報委員までお知らせください。